

1 題材名 「幼児の生活と家族」 A家族・家庭生活

2 題材の目標

- (1) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割、幼児にとっての遊びの意義、幼児との関わり方について理解する。 (知識及び技能)
- (2) 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。	・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領解説技術・家庭編（平成 29 年 7 月）のA家族・家庭生活（2）「幼児の生活と家族」を受けて設定している。ここでは、幼児の生活と家族について、課題をもって、幼児の発達と生活、幼児との関わり方に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫することができるようにすることをねらいとしている。既習事項である、A（1）「自分の成長と家族・家庭生活」との関連を図り、幼児との触れ合い活動を通して、幼児の発達と生活について関心と理解を深めるとともに、人とのよりよい関わり方について考え、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造し、実践しようとする態度を育てたいと考える。

(2) 生徒観

本学級の生徒にアンケートを実施（令和 7 年*月*日）したところ、幼児の成長には周囲の適切な関わりが必要であることに全員が気付いていた。「幼児は周囲のまねをするから、正しく関わるのが大切だと思う。」「成長には、周りの人や環境が関わってくるから。」などの理由を答えた。しかし、適切な関わりができるかについては、*%の生徒ができないと答えた。その理由として、「普段接していないから、どう接してよいか分からない。」「機嫌によって行動がかなり変わるから。」など、具体的にどのように関わったらよいか分からなかったり、関わりに不安を感じていたりする生徒も多いことが分かる。このことから、幼児の発達と生活、幼児との関わり方に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得し、実生活での様々な世代の人々とのよりよい関わりを目指して、問題を解決しようとする力を身に付けさせたい。

(3) 指導観

題材の導入では、自分の成長を振り返ったり視聴覚教材を用いたりして、多くの人に支えられてきたことを実感させる。次に、実物教材やロールプレイング等を取り入れ、幼児と関わる上で必要な知識や技能を習得させる。疑似体験（幼児の世界体験）や話し合い活動を効果的に題材に組み込むことで、遊び道具の製作や幼児との触れ合い活動について関心を高められるようにするとともに、課題の解決に主体的に取り組むことができるようにする。そして、第1次での学習を生かして、第2次では、遊び道具を製作し、触れ合い活動の計画を立てて実践する。また、実践を振り返って、評価・改善するとともに、これからの幼児とのよりよい関わり方について考えられるようにする。このような一連の学習過程を通して身に付けた力を、生活をよりよくするために生かし、実践しようとする態度へつなげたいと考える。

5 題材の指導計画（11 時間扱い）

第1次・・・幼児の生活と遊び（5時間）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等 ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面
1	1	幼児とともに生活していくためには、どのように関わるとよいのだろうか 学習課題 私たちはどのように成長してきたのだろうか。 ・幼児の発達のVTRを視聴し、気付いたことをまとめる。 ・お気に入りの遊びや絵本など、自分の幼児期を振り返る。 まとめ 幼児の成長には、周囲の人との関わりが大切である。				・第1学年で学習した家族・家庭の機能（子供を育てる）について確認するが、生徒のプライバシーには十分配慮する。 ○ 態：自分の幼児期を振り返ることができない生徒には、VTR視聴の感想を聞くなどして、幼児について興味・関心がもてるようにする。 【ワークシート】
	2	学習課題 幼児の心身はどのように発達していくのだろうか。 ・写真や実物教材（人形、服など）、脈拍計測体験などから、体の発達の特徴について考える。 ・幼児の言語や認知、情緒、社会性の発達の様子を年齢ごとに整理する活動を通して、心の発達の特徴について考える。 まとめ 幼児の心身の発達には、一定の方向や一般的な順序があるととともに個人差がある。	◎			知：幼児の心身の発達の特徴を理解している。 【ワークシート、ペーパーテスト】
	3	学習課題 幼児はどのように生活習慣を習得していくのだろうか。 ・幼児の生活習慣をまとめる。 ・ロールプレイングを通して、生活習慣を習得させる家族の役割について考える。 まとめ 生活習慣の習得には段階があり、家族や周囲の人の配慮や援助、声掛けが大切である。	◎	◎		知：幼児の生活の特徴を理解している。 【ペーパーテスト】 知：子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 【ワークシート、ペーパーテスト】

4	学習課題 幼児にとっての遊びにはどのような意義があるのだろうか。 ・さまざまな遊びを観察し、遊びで育つ能力について考える。 ・幼児が遊ぶために適切な環境があることを知る。 まとめ 幼児にとって遊びは生活そのものであり、心身の成長や発達にとって欠かせないものである。	◎		知：幼児にとっての遊びの意義について理解している。 【ワークシート・ペーパーテスト】
5 本 時	目標：幼児とのよりよい関わり方について考える。 1 本時の学習課題を確認する。 学習課題 ***保育園児とよりよく関わるためには、どのような配慮や工夫が必要だろうか。 2 学習の手順や説明を聞き、本時の流れを確認する。 3 幼児の世界を体験する。 (1) 幼児に関する体験や観察をしたり、問題を考えたりする。 (2) 気付いたことをワークシートに記入する。 <pre> graph TD A[A 幼児の視野体験] --> B[B 幼児用衣類の観察] B --> C[C 幼児の手先の動き体験] C --> D[D 食事の比較] D --> E[E 幼児のおもちゃ観察] E --> Q4[Q4 どうする？遊び] Q4 --> Q1[Q1 どうする？声かけ] Q1 --> Q2[Q2 どうする？着替え] Q2 --> Q3[Q3 どうする？お絵かき] Q3 --> Q4 </pre> 4 気付いたことを発表する。 (1) グループワーク (2) クラスワーク 5 本時のまとめをする。 まとめ 幼児と目の高さを合わせたり、ゆっくりと分かりやすい言葉で話したりすることが必要である。また、幼児に応じて関わり方を工夫することが大切である。 6 本時までを振り返り、分かったことを自分の言葉でまとめる。	◎	○	・前時までの学習を振り返り、心身の発達の特徴や生活習慣の習得などについて確認する。 ・様々な体験や思考ができるよう、9つのブースを用意し、グループごとに3分間ずつ、体験や観察、問題を考えることを説明する。 ・安全面や時間配分を確認し、グループ内で意見交換をしながら活動するよう指示する。 ・学習が深まるように、A、B、C、Eの各ブースの体験や観察の後に、Q1からQ4のブースでは、状況や場面に応じた関わり方について考えるようにする。 ・各ブースを回りながら、幼児の生活が家族や周囲の人々に支えられていることに気付くよう助言する。 思：幼児とのよりよい関わり方について考えている。 【ワークシート】 態：自分の感じたことをまとめることができない生徒には、友人と体験内容を振り返りながら気付いたことを引き出すようにする。 【振り返りカード】